事務事業評価シート

評価実施年度： 平成２８年度

上位の施策名称	施策Ⅱ－５－５ 農山漁村の多面的機能の維持・発揮

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課鳥獣対策室長　多根　純	電話番号	0852-22-5157

事務事業の名称		野生鳥獣被害対策事業
目的	（1）対象	農林業従事者、中山間地域住民
	（2）意図	農林業被害に対して、効果的・効率的な対策を行う
事業概要	・効果的な防除方法を検討し、農林業者に対し、防除方法の普及等を図る。 ・地域の実情にあった対策を実施してもらうために、市町村に対して、有害鳥獣被害対策交付金により財政支援をする。 ・有害鳥獣捕獲従事者を確保するため、狩猟免許試験を実施する。 ・野生鳥獣の生態や行動等を考慮した対策を講じるため、鳥獣専門指導員を配置して、県民に対して指導等を行う。	

2.成果参考指標

成果参考指標名等			年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	地域ぐるみの鳥獣対策取組み数（累計）	目標値		31.0	34.0	37.0	41.0	箇所数
			取組目標値						
	式・定義	地域ぐるみの鳥獣対策取組み数	実績値	29.0					
			達成率	－	－	－	－	－	%
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	－	－	－	－	－	%

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事　業　費（b）（千円）	120,863	132,294
うち一般財源（千円）	19,537	23,511

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

県内各地において、イノシシ・サル・シカ等の鳥獣による被害が発生しており、営農面の被害にとどまらず、営農意欲喪失等の精神面の被害、さらには耕作放棄地の増加といった環境面の被害にもつながっている。

県内の鳥獣による農林作物被害は、イノシシの餌となる堅果類が不作で餌を求めて人里に多数出没した平成２２年度を除いては、近年４～８千万円台の被害額で推移している。

6.成果があったこと（改善されたこと）

鳥獣被害防止については、広域柵の設置を契機に柵の管理をはじめ、未収穫作物の適正管理などによる田畑を鳥獣の餌場としない取組や追い払い活動などへの関心が高まるなど、地域ぐるみの防除意識が徐々に高まってきている。

有害鳥獣捕獲従事者数は、狩猟者の高齢化等により長期的に漸減傾向にあり、県では平成２１年度以降、狩猟免許試験の休日開催や試験会場を増やすなど利便性を高めた結果、新規取得者が増加した。

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

鳥獣による農林作物被害が減少しておらず、農林業者の生産意欲の低下等により耕作放棄地が増加しており、これが更なる被害を招く悪循環の要因となっている。

②困っている状況が発生している「原因」

近年の被害は、未収穫物が農地に放置されイノシシ等の餌になるなど農地を餌場と認識させてしまっていることや侵入防止柵等の管理不足などが要因となっている。これらの管理や追い払い活動は、個人が単独で実施するより地域全体で実施した方が効果的であるが、これまで鳥獣被害が発生していなかった地域や少なかった地域では、対応が十分でないところがある。

③原因を解消するための「課題」

被害軽減を図るためには、捕獲体制の整備と併せ、集落や営農組織などが取り組む地域ぐるみの被害防止対策の推進が必要である。

8．今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

市町村における捕獲体制の点検・整備や、集落等における広域柵の設置等を契機により効果的な被害対策の実施に向けて合意形成を指導支援し、地域ぐるみの取組を推進する。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9．追加評価（任意記載）

更新日： 2016/12/14 14:37